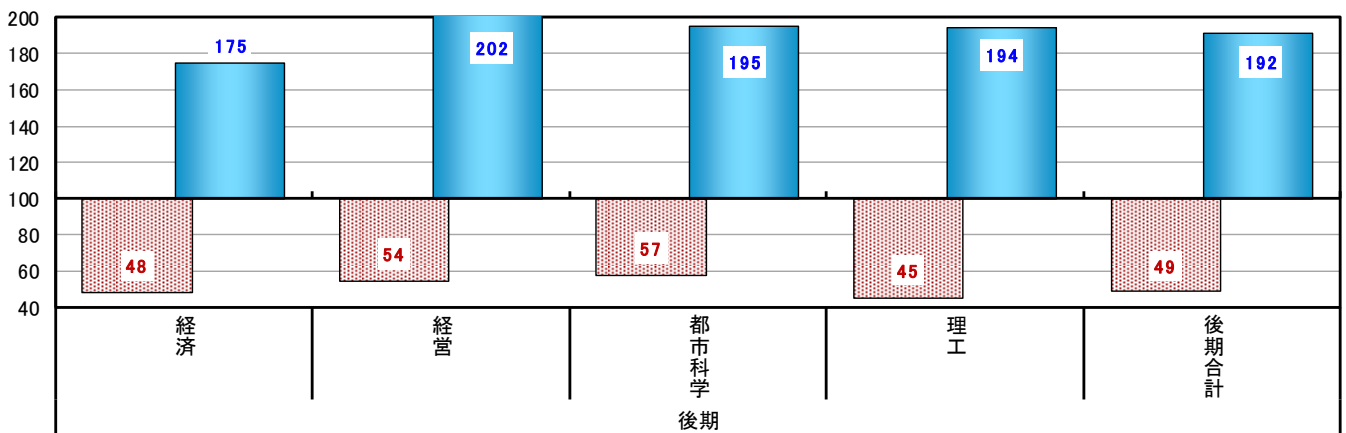
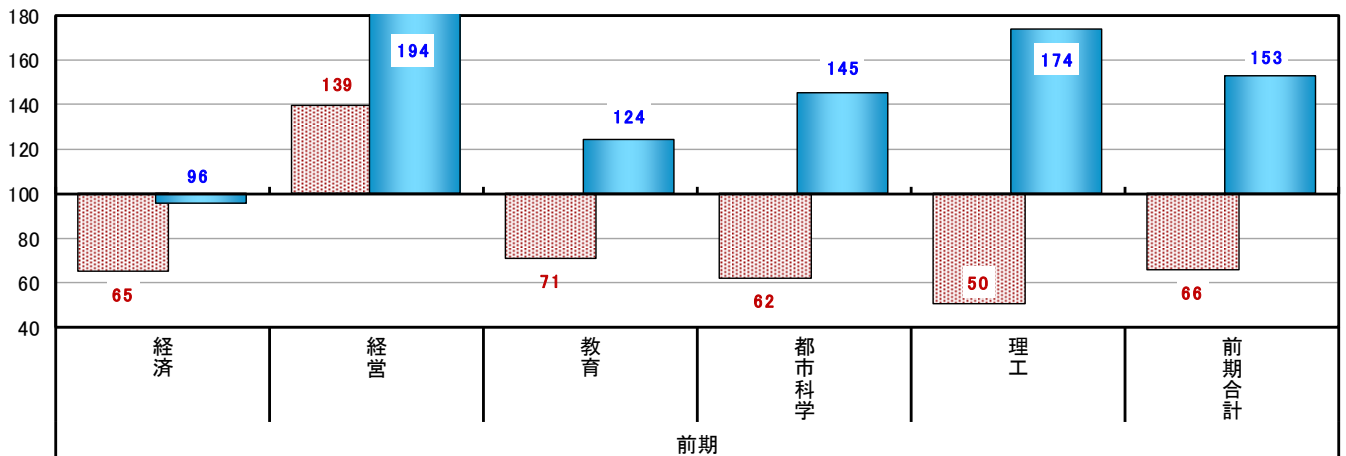


横浜国立大：前年度比では大幅増加も、2020 年度比では前期微増、後期やや減少 前期：+980 人 後期：+2,131 人

※前年度の志願者数を100とする指数

■ 2021年度/2020年度 ■ 2022年度/2021年度



主な入試変更点 コロナ禍特別対応：個別試験実施を見送り、共通テストの成績により選抜(ただし、教育では面接や実技等に相当する提出物を求める)に変更
 →2020 年度入試までと同様に個別試験を実施(ただし、以下の変更あり)
 第 1 段階選抜：経済<後>…新規実施、実施基準は募集人員の約 15 倍(通過予定人数：約 1,200 人)
 経営<前>…新規実施、実施基準は募集人員の約 6 倍(通過予定人数：約 930 人)
 募集人員：都市科学(都市社会共生)…<前>30 人→33 人
 個別試験：経営<前>…実施なし→数 or 外
 都市科学(都市社会共生)<前>…外+論→論 ※2021 年度はコロナ禍特別対応で個別試験実施を見送り
 <後>…外+論→面 ※2021 年度はコロナ禍特別対応で個別試験実施を見送り

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

前年度はコロナ禍の影響を考慮して、個別試験実施を見送り、共通テストの成績により選抜(ただし、教育では面接や実技等に相当する提出物を求める)に変更したため、合格目標ラインが見極めにくくなったことと、共通テストで失敗して個別試験での逆転を狙う層を失ったことで、前期・後期とも大幅減少となった。今年度はコロナ禍特別対応が無くなり、基本的に 2020 年度入試までの選抜方法に戻ったことで、大学全体では 3,111 人(174)の激増となった。日程別でも、前期は 980 人(153)の大幅増加、後期は 2,131 人(192)のほぼ倍増だった。ただし、2020 年度比では、大学全体では 281 人(96)のやや減少、前期は 13 人(100)の微増、後期は 294 人(94)のやや減少だった。共通テストの平均点ダウンの影響を受けた後期が 2020 年度までの 3 年連続減少からさらに減少した。

<前期日程>

- **経済(96)**は、やや減少で 4 年連続減少。志願倍率も 2.5 倍→2.4 倍にわずかにダウン。新設 2 年目の(DSEP)の志願倍率は 3.4 倍→2.2 倍、(LBEEP)の志願倍率は 2.3 倍→1.5 倍とダウンし、いずれも学部全体の志願倍率を下回った。
- **経営(194)**は、2020 年度も個別試験の実施はなかったの、前年度もコロナ禍特別対応による影響はなかった。今年度は新たに個別試験を実施することになり、共通テストの平均点ダウンにより個別試験での逆転を狙う層からの支持もあって、ほぼ倍増で 2 年連続大幅増加、志願倍率も 2.4 倍→4.6 倍にアップ。前期 5 学部中、最も増加率が高くなった。新設 2 年目の(DSEP)の志願倍率は 4.7 倍で学部全体の志願倍率を上回った。
- **教育(124)**は、課程・コース・領域の大規模な改組が行われて 2 年目だが、学部全体では大幅増加で 2 年ぶりの増加、志願倍率も 2.2 倍→2.7 倍にアップ。ただし、2020 年度比では(88)の減少。募集単位別では、極端な激増の募集単位があるが、前年度が特別な選考によるものだったので、次年度の動向への影響は限定的。
- **都市科学(145)**は、大幅増加で 2 年ぶりの増加。ただし、2020 年度比では(91)の減少。学科別では、(建築)(227)は約 2.3 倍増だが、2020 年度比では(88)の減少。一方で、(環境リスク共生)(86)は減少、2020 年度比では(75)の大幅減少。
- **理工(174)**は、激増で 2 年ぶりに増加。ただし、2020 年度比では(88)の減少。学科・教育プログラム別では、(機械・材料・海洋系/材料工学)(55)のみ大幅減少で、他の 8 募集単位はいずれも大幅増加。特に、(化学・生命系/化学・化学応用)(264)

が約 2.6 倍増、(数物・電子情報系／情報工学) (181) が約 1.8 倍増と目立った。ただし、2020 年度の志願者数を上回ったのは(数物・電子情報系／数理科学)、(化学・生命系／バイオ)の 2 募集単位のみだった。

〈後期日程〉

- **経済 (175)** は、激増で志願倍率は 6.8 倍→11.8 倍にアップ。ただし、2020 年度比では (84) の大幅減少で、志願者数は 1,000 人を下回った。新設 2 年目の (DSEP) の志願倍率は 6.2 倍→9.0 倍にアップしたが、学部全体の志願倍率には及ばなかった。
- **経営 (202)** は、倍増以上で志願倍率は 5.9 倍→12.0 倍にアップ。ただし、2020 年度対比でも (110) の増加。新設 2 年目の (DSEP) の志願倍率は 16.3 倍→21.0 倍にアップし、学部全体の志願倍率を上回った。
- **都市科学 (195)** は、ほぼ倍増。2020 年度比でも (112) の増加。学科別では、(環境リスク共生) (33) は 2 年連続大幅増加の反動で激減。他の 3 学科はいずれも倍増以上。特に、(都市社会共生) (299) はほぼ 3 倍増。
- **理工 (194)** は、倍増近かったが、2020 年度比では (88) の減少。学科・教育プログラム別では、9 募集単位がすべて大幅増加で、特に(数物・電子情報系／電子情報システム) (215)、(数物・電子情報系／物理工学) (212)、(化学・生命系／バイオ) (211)、(化学・生命系／化学・化学応用) (203) の 4 つの募集単位はいずれも倍増以上。しかし、2020 年度の志願者数を上回ったのは(数物・電子情報系／数理科学)だけだった。